

平成26年8月21日（木）
国土交通省 関東地方整備局
千葉国道事務所

記者発表資料

平成26年度「道路ふれあい月間」推進標語 優秀賞受賞者へ表彰の伝達式を行います

国土交通省では、毎年8月を「道路ふれあい月間」（別添参照）として、道路の役割及び重要性を再認識していただき、さらには道路をいつくしむという道路愛護思想の普及、及び道路の正しい利用の啓発を図ることに努めております。

この月間にあたり、改めて道路の意義、重要性について考えていただくことを目的として平成26年度「道路ふれあい月間」推進標語を広く一般から募集しました。その結果、千葉県内から3名の方が優秀賞を受賞されました。

このたび、千葉国道事務所に於いて、表彰の伝達式を開催することになりましたのでお知らせします。

【日 時】平成26年8月25日（月） 13時30分～

【場 所】千葉国道事務所 柏維持修繕出張所

千葉県柏市吉野沢3-9

※当日は自由に取材ができます。取材を希望される場合は、事前に下記問合せ先までご連絡下さい。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、千葉県政記者会、柏記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 千葉国道事務所

電話 043-287-0311（代表）

副所長 うと 宇都 ゆうじ 優二 管理第一課長 おおつが 大塚 のりお 典夫

(参考)

「道路ふれあい月間」とは

道路の役割及び重要性を再認識していただき、さらには道路をいつくしむという道路愛護思想の普及、及び道路の正しい利用の啓発をはかるための月間で、国土交通省が中心となり関係機関が主催、民間主要団体の協賛で実施しています。

「道路ふれあい月間」推進標語の募集

【目的】道路は、国民の日常生活や経済活動に欠くことのできない基本的な施設ですが、あまりにも身近な存在であるため、その重要性が見過ごされがちです。

そこで、この推進標語の募集を通じて、改めて道路の意義、重要性について考えていただくことを目的としています。

【テーマ】道路は、生活の向上と経済の発展に欠くことのできない国民共有の、つまりあなたの財産です。

みんなが道路と親しみ、ふれあい、常に広く、美しく、安全に、共に楽しく利用し、子孫に受け継いでいきましょう。

「道路ふれあい月間」推進標語大臣表彰について

国土交通省では、「道路ふれあい月間」（8月）の行事の一環として、改めて道路の役割・重要性について考えていただくことを目的に、広く一般から本月間における取組を推進する標語を募集したところ、全国から6,075作品の応募がありました。

応募作品について、三好礼子（エッセイスト、元国際ラリースト）、やすみりえ（川柳作家、文化庁審議会分科会委員）、吉岡耀子（交通・環境ジャーナリスト）の3名の委員による審査を行い、「小学生の部」「中学生の部」「一般の部」の部門毎に、最優秀賞1作品ずつと優秀賞2作品ずつの計9作品が選定され、千葉県内から次の3名の方の作品が優秀賞を受賞されました。

◆ 優秀賞 ◆

【小学生の部】

「一つだけ そんな気持ちが ゴミの山」

てらだ むさし ちばけん かしわしりつ かしわだいいち
寺田 武蔵さん（千葉県 柏市立柏第一小学校）

「通学路 楽しい今日の 入り口だ」

なかやま りりか ちばけん あびこ しりつ ねど
中山 莉里加さん（千葉県 我孫子市立根戸小学校）

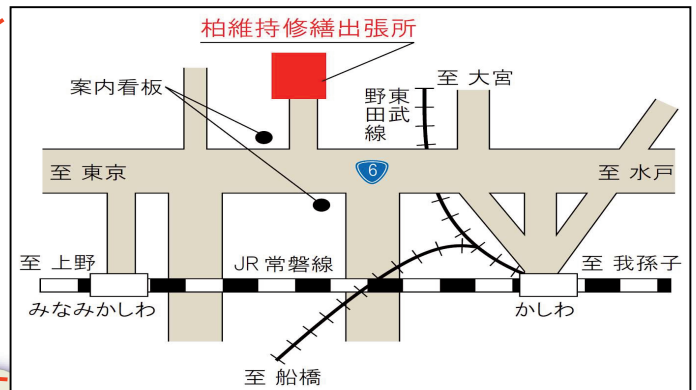
【一般の部】

「くつ音も ころも軽く 歩く道」

やなぎさわ ひろあき ちばけん いちかわし
柳沢 裕昭さん（千葉県 市川市）

会場位置図

【広域図】



- 車 常磐自動車道 柏インターより30分
- 電 車 JR常磐線柏駅より徒歩20分
JR常磐線南柏駅より徒歩30分

平成26年度「道路ふれあい月間」推進標語入選作品

◆最優秀賞（3作品）◆

【小学生の部】

「あぶないよ スマホ見ないで どうる見て」

高吉 逞花さん（鹿児島県 南九州市立知覧小学校）

【中学生の部】

「がんばれる 勇気をくれる 道がある」

松山 開豊さん（栃木県 県立佐野高等学校附属中学校）

【一般の部】

「子や孫に つなげていきたい 道がある」

角森 玲子さん（鳥根県 安来市）

◎最優秀賞3作品のうち、委員に特に好評だった「子や孫に つなげていきたい 道がある」を今年度の代表標語とします。

◆優秀賞（6作品）◆

【小学生の部】

「一つだけ そんな気持ちが ゴミの山」

寺田 武蔵さん（千葉県 柏市立柏第一小学校）

「通学路 楽しい今日の 入り口だ」

中山 莉里加さん（千葉県 我孫子市立根戸小学校）

【中学生の部】

「人と人 絆を深く つなぐ道」

鈴木 日頼さん（栃木県 鹿沼市立南押原中学校）

「ぼくたちの 生活支える 道がある」

嶋田 隼さん（神奈川県 川崎市立日吉中学校）

【一般の部】

「くつ音も ころも軽く 歩く道」

柳沢 裕昭さん（千葉県 市川市）

「道は友 ちか道 より道 まわり道」

有田 進さん（鳥取県 鳥取市）

【各委員からの総合選評】

《三好委員》



だんだんと審査のポイントが見えてきて、例年より迷うことなく選んだのですが、現場では自分の中でも、委員の中でも大逆転劇がありました。やはり、直感だけでなく意見を交わして時代を読みながら選ぶことの大切さ。勉強になりました。

最後に我々がこだわったのは、「小学生らしさ」「中学生らしさ」「一般らしさ」だったかと思います。その世代ならではの元気があり、力のある作品を選ばせて頂きました。ぜひ活用して頂きたいです！！ありがとうございました。

《やすみ委員》

「道路」に対する日々の思いをうまく標語としてまとめた作品が多かったです。

普段の生活の中で感じることを誰かと共有しメッセージとして残したいと思っている人が、日本中にたくさんいてくれることをうれしく思います。



《吉岡委員》



最優秀の3作品には、いずれも各世代を代表するイキイキした感性が貫かれています。子どもらしさ、中学生らしさ、そして責任ある大人の目から生み出され、それぞれに世相を反映しているので、人々の記憶にとどまりやすいのではないのでしょうか。

標語を通して、時代のエッセンスが見えてくるようです。

【各委員から最優秀賞作品へのコメント】

小学生の部 「あぶないよ スマホ見ないで どうろ見て」

- 三好委員 ピンと来ました。ニュースでもこのメッセージを聞かない日はありませんが、ストレートに「だめよ」と言われると、ハッとしますね。やさしさ（「あぶないよ」の言いまわし）、厳しさ（「どうろ見て」の願い）、とても気持ちの良い作品ですね。
- やすみ委員 スマホのながら歩きは日常でよく目にする光景です。その様子を見ての素直な気持ちを作品として完成させ、“あぶないよ”という言葉が等身大で使われている点も印象に残りました。
- 吉岡委員 スマホ問題をストレートに訴えた子供の声。標語としてインパクトのある呼びかけになっています。

中学生の部 「がんばれる 勇気をくれる 道がある」

- 三好委員 私もいつもそう思っています。大好きな道は、歩いているだけで生きる力が湧いてきます。作者もきっといろんな壁にぶち当たりながらも、その道の上で様々な光景を見て、力をもらった経験があるのでしょうか。子供から大人まで共感できる作品です。
- やすみ委員 若者らしい前向きな心情を標語として発信しています。見慣れたいつもの道もこのような感覚で眺めると新しい発見があるのではないのでしょうか。すがすがしい雰囲気の良い作品だと思います。
- 吉岡委員 中学生とは、いくつもの岐路に立って、悩む年代。「頑張る」「勇気」という言葉に素直さと頼もしさを感じ、エールを送りたくくなります。

一般の部 「子や孫に つなげていきたい 道がある」

- 三好委員 49回目ということで、再生が課題となっている日本の道をどうするのか？そんな時代と人の縁をきれいにうたった作品ですね。ストレートに思いが伝わってきます。家族のことを言ってますが、人間すべての生活にどれだけ道が大切かを感じさせられます。永遠のテーマですね。きれいな作品だと思います。
- やすみ委員 次世代へのメッセージをしっかりと含んだ標語で、多くの人々の共感を得る内容として評価されました。日本中のあらゆる道をイメージさせてくれます。
- 吉岡委員 高齢化社会を反映した標語です。家族への思いが、やさしさと強さに裏打ちされており、語句もきれいにまとまっています。道路への信頼感も表しています。